

いよいよ彩都まちびらき十周年！ 1万2千人のまちへ！

彩都(国際文化公園都市)は、4月にまちびらき十周年を迎えます。まちびらき時点で約300世帯・900人不足だった彩都の人口は、今年2月末現在で、4,034世帯・11,986人となり、3月中に12,000人を超えることが確実です。1世帯あたり2.97人、平均年齢30.8歳、高齢化率5.6%と、子育て家庭中心の若いまちに育ちました。



2014年。
彩都は、まちびらき10周年



(*)平成22年国勢調査時の大阪府の1世帯あたり人員は2.28人、平均年齢44.3歳、高齢化率22.4%となっています。

■ 彩都の里山を守る「シンボル生きもの」が決定!

まちびらき十周年を記念して一般から公募していた彩都の「シンボル生きもの」として、ツバメ、モリアオガエル、カワバタモロコを選定しました。いずれも、里山で子育てをする生きものたちです。緑豊かな里山に囲まれた彩都の自然環境と生物多様性を次の世代につないでいくため、これらの生きものを「シンボル」として見守っていきたいと思います。特にカワバタモロコは、里山の減少とともに生息域も減少し、絶滅危惧種に指定されています。今回、まちびらき十周年を記念して彩都近くで見つかった個体をあさぎ里山公園と茨木市立彩都西小学校のビオトープに「里帰り」させることにしました。



■ あさぎ里山公園では池干し(かいぼり)を実施

十年前のまちびらきと同時に開設された「あさぎ里山公園」は、造成前からの自然林に加え、大きな芝生広場、噴水のある人工池などが設けられています。この池は、地下水と雨水を水源にしており、魚類は生息していませんでしたが、十年の間にさまざまな生きものが放たれており、特に外来生物の繁殖が問題になっていました。そこで、彩都(国際文化公園都市)建設推進協議会と茨木市では、大阪府水生生物センターの協力を受けて、今回初めて池の水を抜き、外来生物の生息状況の確認と駆除、池の底面の確認などを実施しました。その結果、特定外来生物のブルーギル約7千匹とブラックバス(オオクチバス)70匹を捕獲・駆除、コイ15匹を保護しました。今後、水位を回復させた後で、コイを戻すとともに、カワバタモロコやタモロコなどの在来魚の放流を予定しています。特定外来生物に限らず、池や川に他の地域の生きものを放すことのないようにしてください。

(*)ブルーギルやブラックバスは、外来生物法により飼育や移動、放流が禁止されています。



「一歩が千歩! 彩都まで歩いてみよう!」の開催

彩都(国際文化公園都市)建設推進協議会と大阪高速鉄道株式会社は、彩都のまちびらき十周年と、大阪モノレール彩都線の延伸7周年を記念し、3月19日(水)から万博記念公園駅コンコースにおいて、「一歩が千歩! 彩都まで歩いてみよう!」を開催します。

これは、彩都の開発着手前に撮影された万博記念公園から彩都西部地区までの航空写真と、昨年8月に撮影された最新の航空写真とを並べて床面に展示するものです。航空写真の縮尺は、いずれも約1,000分の1になっていますので、その上を「一歩」歩けば、「千歩」分になります。

遠足やピクニックなどで利用されることの多い万博記念公園駅で是非、「彩都まで歩いて」みてください!



を発売!

彩都まちびらき十周年記念誌として、「るるぶ特別編集 彩都」を発売します。「みどりとみらいのみえる丘」、彩都に住んでよかった、彩都に住みたいと思っていただけのような楽しい冊子になっています。